



# 丸小だより

～ 実践目標 自分が輝く、みんなも輝く ～

令和2年5月11日（月）No. 2

横浜市立丸山台小学校長 新井 篤志

## 先の見通せない今と向き合うには

校長 新井 篤志

大型連休が終わりましたが、政府は緊急事態宣言を5月31日（日）まで延長する方針を決定しました。全国的な感染の拡大、横浜市における感染者の増加が止まっていない状況から、本市の学校も子どもたちの健康と安全を第一に考えて5月31日（日）までの一斉臨時休業の措置が延長となりました。3月から学校が休業となり、不要不急の外出自粛の要請が出されている中、子どもたちも友達といっしょに今までとおりに学校生活を過ごせるようになることを心待ちにしていると思います。校庭開放の時間に来た子どもたちの様子を見ると、あらためて子どもたちが元気に活動する場が学校であり、そうした活動を保障する場が学校の役割であることを痛感させられます。学校の再開に向けて、子どもたちが学校生活を楽しく過ごせるように教職員一同で準備を進めていきたいと思います。引き続き、ご理解とご協力をお願いいたします。

今回のような事態になると、感染の終息の見通しや今の生活がいつまで続くのか先の見えないことが不安を生み出す要因となっていると思います。そうすると1つの不安から新たな不安が次々に浮かんできてしまいます。あらためて先の見通しを持てることが重要なことであるということを実感させられます。先日、あるテレビ番組で視聴者からの手紙をもとに不安とどのように向き合ったらよいかを考えることを取り上げていました。視聴者の手紙には次から次へと自分にこんなことが起きたらどうしようという悩みがたくさん書かれていました。この悩みの解決に向けてのヒントにドイツの哲学者ハイデッカーの考え方を紹介していました。まずは自分の不安を書き出してみることがをします。次に、解決策が思い浮かぶものと解決策が見いだせないものに分けてみます。また、解決策を考えるときに今の自分ができることを解決策に挙げていきます。その際に、未来の不安を現在の目の前のことに置き換えていくことをします。これは、先の見通せない将来に起こるかもしれないことを現在の時間にもってくる作業といえます。これらのことによって、自分にとっての根本の不安は何なのかをとらえていきます。同じ不安でも見え方が変わることで、その後の生き方の参考にできるということのようです。

緊急事態宣言の中で、新しい生活様式を生み出すことも提言されています。学校も従来とは視点を変えた教育活動や教育環境を考えていくことが求められていると考えます。よりよいものになるために取り組んでいくという考え方でいきたいと思います。